

## 平成29年度研究科横断型教育プログラム（Aタイプ）授業科目

開講方式	Aタイプ (研究科開講型)	研究科名	農学研究科 (グローバル生存学大学院連携プログラム)		カテゴリー	自然科学総合科目群		横断区分	文理横断型		
授業科目名 (英訳)	生存基盤食料学 (Sustainable food production system)		講義担当者 所属・職名・氏名		農学研究科・教授 北島宣、奥本裕、白岩立彦、栗山浩一、助教・谷口幸雄他			開講場所	吉田北部キャンパス、附属農場、附属牧場にて開講予定		
配当学年	修士	単位数	2単位	開講期	前期	曜時限	金3、4限 (13:00-16:15) 但し隔週開講	授業形態	講義・演習	使用言語	日本語・英語
〔授業の概要・目的〕											
食料は人間の生存のために必須であり、人が食料を得る手段が農業である。この講義では人間がどのように食料を生産してきたか、人口が100億人に向かう地球で、今後食料はどのように供給されるのか、されるべきなのか、を考える。農学は専門化、深化がすすみ、全体を見通しにくくなっている。本講義では、各分野の専門家を招き、その主題提示(講義、基本的な知見、現状の説明)に対し、講義に参加する他の分野の専門家も意見(対論)を述べ、受講生含め全員で討論する。講義の後半では附属農場でのイネ栽培、堆肥作りの実習、附属牧場での畜舎見学、清掃実習も予定している。これらの講義、討論、実践を通して、農学の研究成果を現場の農業に還元する方法について考える。											
〔研究科横断型教育の概要・目的〕											
本講義では、他専攻の学生にも理解できるように、農と食の現状と問題点を平易に概説し、食と農業が人間の生存に深く関係していることを把握する。そのうえで現在の農業、食料生産の諸問題に、多様な受講生各人の研究領域がどのように貢献できるかを考える。受講生それぞれの視点から世界の食料生産を考え直すきっかけとなる講義としたい。この講義を通じて食と農のリテラシーを教授する。											
〔到達目標〕											
座学と実習を通して現代社会の食料生産、農業の意義と問題点について自分の言葉で語る事が出来る修了生を育てる。											
〔授業計画と内容〕											
タイトル(キーワード、時間数)											
●土壌の保全(灌漑の問題点、塩類集積、森林破壊、プランテーション、2コマ、1日 担当:舟川他)											
●作物の育種と栽培(イネとダイズ、遺伝子組換え作物、地球温暖化、新品種、2コマ1日 担当:奥本他)											
●肥料と農薬(有機農業、窒素循環、化学肥料、農薬、残留性、生態系の保全、除草剤、3コマ1.5日 担当:白岩他)											
●食料の貿易と食品産業(食料輸入、自給率、農業保護、人口増加、外食産業、中食、3コマ1.5日 担当:学外講師)											
●農場、牧場実習(田植え、除草、堆肥製造、飼料給餌、5コマ2.5日 担当:北島、谷口他)											
〔履修要件〕											
講義は英語で行うが、ディスカッションは日本語でも構わない。農業と食料に関心をもつ学生の参加を希望する。											
〔成績評価の方法・観点及び達成度〕											
平常点、講義終了時にレポートを課す											
〔教科書〕											
なし それぞれの講義でプリントなどを用意する											
〔参考書等〕											
川島博之 世界の食料生産とバイオマスエネルギー -2050年の展望, 東京大学出版会, 2008.											
ヨルゲン・ランダース 2052 今後40年のグローバル予測 日経BP社, 2013.											
〔授業外学修(予習・復習)等〕											
毎回の講義の後半のディスカッションについて自分の意見をまとめること											
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕											
各講義で担当教員から連絡先の提示がありますので、教員を自由に訪ねてディスカッションしてください											